

## 作り手のひらめき

—ものづくりからアートへ—

佐川美術館  
学委員・藤井康憲



世界に誇る日本のものづくりは、世にさまざまな製品を送り出しています。「もっと便利に」「もっと楽しい」製品のために日々新たな挑戦を続ける人たちの活躍は、最近のメディアでもしばしば取り上げられています。

ものづくりの原動力となるのが「ひらめき」です。人々の想像を上回る、アツと驚く発明は私たちの好奇心をそそぎ、どのように制作されたのか舞台裏にも注目が集まっています。そんなものづくりの業界をメディアアートの面から盛り上げているのが「TASKO」です。ものづくりを土台に、美術デザインの分野にも活動を広げ、舞台美術、ウィンドウディスプレイや商業施設での装飾、美術館の展示空間など多岐にわたる作品づくりで、国内外で活躍しています。

彼らの作品の一つに『パフューマリー・オルガン』があり、香階(香りを音階に見立てた並び)をもとに、鍵盤の音色とともにアロマの香りが漂う仕掛けがなされています。19世紀後半にイギリスの化学者・ピエスが考案した香階を、オルガンの構造に当てはめると面白いのではないかとという発想から生まれた作品です。芸術において「視覚」や「聴覚」に注意が払われますが、「嗅覚」をアートに取り入れるひらめきがありました。

12月19日(木)から開催される「つくる展」では、そんなひらめきに満ちた作品が一堂に会します。私たちの発想力や創造力が刺激され、自分も何かをつくりたくなる、そんな体験を試してみたいかがでしょう。

※開館情報は、佐川美術館ホームページでご確認いただくか、電話☎(585)7800でお問い合わせください。



\*緑の葉と水の雫をモチーフにした守山ブランドのロゴマークです。  
小さな活動が種となって、大きく育つ「守山」をイメージしてタイトルをつくりました。

## 夢のある斬新な農業を応援しよう

### 新規就農者と農業委員、市職員が意見交換会 はじめての取り組みで「豊かな田園都市」へ



古くからの米どころとして、豊かな田園風景とともに発展してきた本市は魅力ある農産物や特産品が栽培され、市外からの新規就農者も増えています。新規就農者は大きな夢と希望、斬新な構想を抱いていますが、技術的にも経済的にも不安定です。

市では、新規就農者の支援につなげようと、市長や関係部署の職員、農業委員と新規就農者の第1回 意見交換会を実施しました。

就農して2～6年の若手農家6人は、就農したきっかけや、やりたい農業、抱えている課題などについて発表。それを受けて市職員や農業委員が質問したりアドバイスをしたりと、活発な意見を出し合いました。

市は今後も意見交換を継続して開催する予定です。

